

原水協活動 FAX News

発行: 原水爆禁止日本協議会

電話 03 5842 6031 FAX 03 5842 6033

URL <http://www.antiatom.org/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2008年6月6日 No.54

“もう待てない。一刻も早く全面解決を”

原爆症認定集団訴訟で原告が座りこみ 政府が上告断念へ

5月28日の仙台高裁、30日の大阪高裁の原告全員勝訴を受けて国・厚生労働省は上告するな、全国305人の原告全員を原爆症と認定せよ、原爆症認定集団訴訟の早期全面解決を求めて原告・被爆者、弁護団、支援者は6月3日から5日まで厚生労働省前で座りこみを行いました。32人の原告被爆者が座りこみに参加し、自らの被爆体験を語り、訴訟の解決を訴えました。NHKや多くのマスコミが注目する中、5日午前中には舛添要一厚生労働大臣が原告代表との面談が実現。厚労大臣は、「仙台、大阪高裁判決を非常に重く受け止める。時間がないこともわかっている。今日、福田首相が帰って来たらきちんと伝え、国民の理解を得るために自分が先頭に立って説明する」と約束しました。



3日間で全国から1000人近くが座りこみ行動に参加し、衆・参両議院から15人の国会議員がかけつけました。日本共産党の志位和夫委員長が激励に訪れました。初日には青年たち主催のキャンドル集会、2日目には国会請願パレードと原告全員救済を求める総決起集会が行われました。

この行動を受けて、政府は仙台・大阪高裁について上告断念の検討に入りました。週明けにも正式に決定する予定です。

6月7日には11時から1時間、福田首相との面談を実現し、原告全員認定の政治決断を求める宣伝行動を渋谷八チ公前で行います。

世界大会にむけパンフ・ポスター・チラシ・ハッパの積極的活用を

全国で4万6千部を超える世界大会パンフレットが広がっています。高知県原水協からは前年の1150部から1000部多い1250部の注文がありました。松繁悦子事務局長は、「大会までの事前学習の位置づけを強めそれぞれの団体や地域で取り組もうと提起しています。カンパしてくれるならパンフも買ってください。大会に行けない人も行く人も学べる機会があればと思います。また、300円なら高校生や学生も買える額だと思つので青年もみんな買ってもらおうようにしたいです」と話しています。

21万羽おりづるプロジェクトに5000羽目標

「ピースネットわかやま」の川野友恵さんは昨年の夏、原水爆禁止世界大会に参加し被爆者の話を聞いて自分に何ができるのかを考え、一人でも多くの人と一緒に広島に行き、世界中から戦争による犠牲者や被害者をなくしたいと和歌山からバスを出したいと表明しました。5月28日にはバスツアー第1回実行委員会をひらき、参加を表明している高校生とその友達に昨年の様子を説明し、今年のスケジュールを確認しました。そして、「21万羽おりづるプロジェクト」に今年は5000羽で参加することを決めました。



実行委員会に先立つ25日には和歌山駅前折り鶴宣伝を実施。若い人が気軽に折ってくれ、「おりがたがわからないんですけど...」と言う人も、教えたら時間がかかっても折ってくれると手ごたえを感じています。

「ピースネットわかやま」では、広報と交流と連絡用にブログを立ち上げて参加者を募っています。<http://peacenet-waka.jugem.jp/>